

TRANSITION TO HEALTH (116)

“ 新型コロナウイルス感染 ④ ”

～ 追加接種で自己免疫疾患、ターボ癌発症（1,433倍！）～

はじめに

前々号では「**似非**コロナパンデミック」「ワクチン論文の**捏造**」「イベルメクチンに対する**迫害**」についてお話し、前号では「EU 議会：COVID 公聴会での**ファイザー**社取締役の『COVID ワクチン**感染防止試験未実施**』証言』についてお話しした。世界的には“ワクチン接種中止”“PCR 検査未実施”の方向に舵が切られているのだが、日本は**異次元**（？）の方向に舵を取っているようだ。

11月30日現在、日本は“ワクチン接種率：世界**第1位**”となっている。2位以下を大きく引き離し、驚異的な高接種率を誇る国（？）となった。さて、コロナ死亡率について見てみると（右表）、3年弱にわたる累積であるが、死亡率はわずか**0.046%**である。

第7波での致死率を見ても、わずか**0.091%**で、以前の季節性インフルエンザと同程度である。第5類への格下げの議論は別として、少なくとも『**似非パンデミック**』であることに間違いはないと言えるのではなかろうか（個人的見解）。昔は、老人が風邪をこじらせて命を落とすことは普通の出来事であった。“**風邪は万病の元**”で、持病（基礎疾患）が悪化して死亡することは頻繁に起こっていた。また、老人施設での死亡原因の**8%**程度がいわゆる風邪のウイルスが原因とも考えられていた。

有害な「承認治療」、有益な「未承認治療」

メディアに登場するお抱え専門家たちは、ワクチンの有効性・安全性のエビデンスが、初めから何も無いのにも関わらず、接種を推奨してきた。ワクチンメーカー、WHO、CDCなどのワクチン推進派の思惑通り、新たな治療薬も、有効性・安全性に関する確固たるエビデンスが全く無いのに承認された。逆に、良識ある医師集団・ノーベル賞受賞科学者などのワクチン慎重派が、ワクチンの副反応・危険性・後遺症や、新たな治療薬の危険性を指摘しようとする、と「エビデンスはあるのか？」と詰め寄るという奇妙な現象が起こっている。そして、有効なイベルメクチンやアピガンは迫害を受け、無効・有害などとして承認されない。私たち善良な医師（？）たちは、「反ワクチン派」というレッテルを貼られてしまう。世界中で今までに、一体、何十万人、いや、何百万人ももの患者さんが、レムデシビルなどの**有害な承認治療薬**によって**死亡**してきたことか。

◆ ワクチン接種で免疫力低下、発がん率上昇

ワクチン1回接種で免疫力**15%**低下、2回接種で**35%**低下、そして、免疫力低下により**带状疱疹**、梅毒、結核、**悪性リンパ腫**、**自己免疫疾患**を発症するという。コロナワクチンが原因で**神経系疾患**が**1,000%**増加する（トーマス・レンツ氏）、また、**癌**は**300%**増加、**心筋炎**は**220%**増加するという。発癌率も極めて高くなっており、わずか数ヶ月で急激に癌を発症するため、**ターボ癌**とも呼ばれている。さらに、ワクチン接種の後遺症として、脳神経細胞内でスパイク蛋白が産生され、**ブレイン・フォグ**（brain fog）や人格変化が起こり、更にはヤコブ病や**認知症**も発症すると指摘されている。また、日本では2021年の死者数は2020年より約**67,000人**増加しており、コロナワクチンの接種が原因ではないかと推測されている。

日本の“ いわゆる 新型コロナ”死亡率について	
累積死亡数	57,272人（12/31現在）
日本の人口	約1億2,485万人（11/1現在）
累積コロナ死亡率	0.046%
第7波致死率	0.091%（季節性インフルエンザ並み）

ワクチン接種で免疫力低下	
1回接種	免疫力15%低下
2回接種	免疫力35%低下
追加接種	更なる免疫力の低下
带状疱疹 、梅毒、結核、 悪性リンパ腫 、 自己免疫疾患 、 発癌率 も急上昇	
神経系疾患	1,000%↑↑↑
心筋炎	200%↑↑
癌	300%↑↑

◆ 医学会で、ワクチン接種後の免疫疾患の発症報告が相次ぐ（2022年9月時点）。

ワクチン接種後に発症したとして、**ギランバレー症候群（GBS）**が220例以上、**血小板減少性紫斑病**が140例以上、医学会で報告されている。血栓止血学会では**重症自己免疫性第ⅩⅢ／13因子欠乏症**という自己免疫疾患も報告されている。

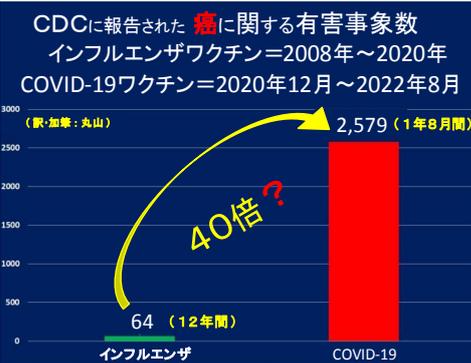
米政府報告：COVID-19 ワクチン接種により 前例無きスピードで 癌発症

アメリカ政府・CDCの報告をもとに、『THE EXPOSÉ』が、2022年10月14日「Government reports suggest COVID Vaccination is causing Cancer at an unprecedented rate」というタイトルで報告していたので紹介しよう。

癌は米国で2番目に多い死因であり、残念ながら、人体実験的なCOVID-19ワクチン接種が原因で、増加している可能性があるようである。米国政府の公式データでは、COVID-19 ワクチン接種後に**癌を発症するリスク（危険度）**が、**対照群（＝インフルエンザワクチン）の1,433倍**であることが確認された。

CDC(米国疾病管理センター)は、アメリカ合衆国で接種されたすべてのワクチンについて報告された副作用に関するデータを、**ワクチン有害事象報告システム（VAERS）**を用いて集計している。COVID-19 ワクチンの副作用として報告された癌症例数に関するCDC VAERS データベースを検索すると、2020年12月から2022年8月5日までの、わずか**1年8か月間**で、**癌に関連する有害事象が2,579件**発生していた。この有害事象の数を、**インフルエンザワクチン接種による癌発症関連有害事象64件**と比較すると、**COVID-19 ワクチン接種に関連する癌発症件数の方が40.3倍も多い**ことがわかった。しかし、私が前ページで紹介した300倍には程遠く、かなり低い。

次に、『THE EXPOSÉ』は、ワクチン接種回数10万回当たりの癌発症件数で正確に比較する必要があると考えた。米国で実際に接種されていた**インフルエンザワクチンは12年間で17億2,040万回**であり、報告された癌に関連する有害事象の数は**10万回当たりでは、わずか0.0003件**と算出される。これに対し、COVID-19 ワクチンは、2022年8月9日の時点で、米国では**6億600万回**接種されている（米国「データで見る私たちの世界」より）。計算してみると、COVID-19 ワクチンの場合、報告された癌に関連する有害事象の数は**10万回当たり、約0.43件**と算出される。単純に、報告された実数（粗い数字、生の数字）で見ると約40倍の増加にしか見えないが、正確に、単位接種回数（10万回）当たりの件数を算出して比較すると、なんと、驚愕の**1,433倍**（ $0.43 \div 0.0003 = 1,433$ ）も癌に関する有害事象が発生していたことになる。個人的には、アメリカ人のインフルエンザワクチンの接種率の高さに驚きを隠せないが、インフルエンザワクチンも、年に1、2回、毎年接種していれば、免疫力の低下を免れないと考えられるので（ワクチン慎重論的には常識？）、比較対象の対照群が「インフルエンザワクチン接種者」ではなく「未接種者」であったならば（データが無いので比較は不可能であるが）、何倍になってしまうのだろうか。2,000倍？ 3,000倍？・・・？



おわりに

2022年12月16日時点での日本の**接種後死亡**事例報告は**1,919人**である。ワクチンは“万人に安全”というものではない。また、2021年2月～2022年9月の**超過死亡**の累計は、約**19万3,900人**と推定される。「追加接種 ⇒ 感染拡大 ⇒ 超過死亡増加」の図式が成り立つ。ワクチン接種により自然免疫が抑制され、**带状疱疹**などを発症し、その先で待っているのは「**発癌**」なのか？ 同じ東南アジアでも、4回目接種を行わなかったインドやインドネシアではBA5の流行は発生しなかったが、4回目接種をした台湾ではBA5の大流行が起こっていた。追加接種に「**感染促進効果**」があるのは確かである（個人的見解）。史上初の人体実験「COVID-19ワクチン接種」は、もう中止すべき時期に来ているのではないのか（個人的見解）。